



フラットフード形レンジフードファン

本体スイッチタイプ			
左排気		右排気	色調
形 名	V-602SHL3-BLL	V-602SHL3-BLR	ホワイト
	V-603SHL3-BLL	V-603SHL3-BLR	
	V-604SHL3-BLL	V-604SHL3-BLR	
	V-602SHL3-BLL-B	V-602SHL3-BLR-B	ブラック
	V-603SHL3-BLL-B	V-603SHL3-BLR-B	
	V-604SHL3-BLL-B	V-604SHL3-BLR-B	

据付説明書

販売店・工事店様用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付けの前に、この説明書をよくお読みください。

据付けは販売店・工事店様が実施してください。間違った据付けは、故障や事故の原因になります。お客様ご自身での据付けは、故障や事故の原因になります。

電気工事は販売店・工事店様において有資格者である電気工事士の方が実施してください。（無資格者の電気工事は法律で禁止されています）

■本製品は住宅の台所用です。それ以外の用途（業務用など）には使用しないでください。故障の原因となります。

■本製品の据付けにあたっては、地域により防災上での制限（内装材の制限、可燃物との距離の制限、ジャバラの使用など）がありますので、詳細は行政官庁または、消防署にお問い合わせください。

■接続ダクトはφ150の鋼板管・スパイラルダクトのいずれかをご用意ください。

もくじ

ページ

安全のために必ず守ること	2
据付け前のお願い	3
外形寸法図	4～5
据付方法	6～10
据付け後の確認	10～11
試運転	12
お客様への説明	12

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。

優良住宅部品(BL)について

- 当社の定める据付要領を逸脱しない据付けに瑕疵が生じ、据付け者が無償修理や損害賠償を行った場合、BLマークの証紙の貼付（又は刻印等）がされている住宅部品については、一般財団法人ベターリビングのBL保険制度により、保険金が支給されます。
- BL保険制度については、一般財団法人ベターリビングのホームページ(<http://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。

 警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	 注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
---	---

 禁止	 指示に従い必ず行う	 分解禁止
 接触禁止	 アース線接続	 水かけ禁止
 プラグを抜く	 風呂・シャワー室での使用禁止	

警告

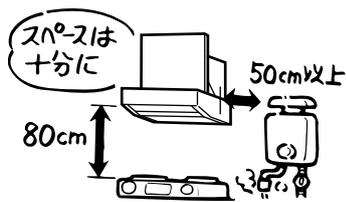
 禁止	内釜式風呂を設置した住宅には据付けない 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。	 指示に従う	交流100Vを使用する 直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因。
 水かけ禁止	製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因。		製品金属部(金属製ダクト)がメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電氣的に接続しないように据付ける 接続されていると漏電した場合火災の原因。
 分解禁止	改造や必要以上の分解はしない 火災・感電・けがの原因。		自然排気型ストーブがある部屋に据付けるときは、部屋の空気取入れ口を設ける 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。
 プラグを抜く	ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る 通電状態では感電の原因。		包装用ポリ袋などは幼児の手の届かない所に廃棄または保管する 幼児が頭からかぶると、窒息の原因。
 アース線接続	アースを確実に取付ける 故障や漏電した場合感電の原因。		

注意

 禁止	直接炎のあたるおそれのある場所や、有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない 火災の原因。	 指示に従う	据付けの際は手袋を着用する 着用しないとけがの原因。
 風呂・シャワー室での使用禁止	浴室など湿気の多い場所では絶対に据付けない 感電・故障の原因。		指定のランプを使用する ランプ周辺が高温になり、やけどの原因。
 接触禁止	運転中は危険ですから、羽根の中に指や物を入れない けがの原因。		電気工事・アース工事は電気工事士が行うこと 電気工事士以外の方が工事すると、火災・感電・けがの原因。
 プラグを抜く	据付け後長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。		フロントカバーは電気工事後、必ず取付けるほごり、湿気などの浸入による漏電、火災の原因。
 指示に従う	本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因。		本体・部品の据付けは、ねじれ、変形がないように確実に 落下によるけがの原因。
			部品の取付けは確実に 落下によりけがの原因。

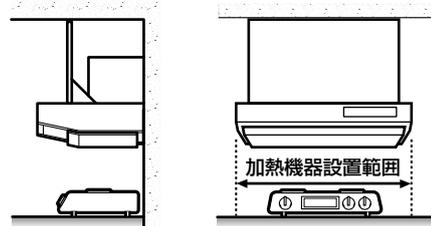
据付け前のお願い

右図の寸法を守る

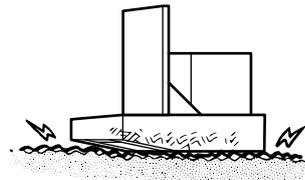


- 本体のフィルター下端から加熱機器までは80cm離す。
(モーター故障や排気ガスによる塗装面のサビ発生の原因)
- 80cmにできるだけ近い距離で据付ける。
(捕集性能が低下する原因)
- ガス給湯器から50cm以上離す。(サビ発生の原因)

レンジフードファンは加熱機器よりも幅の広い物を選択する。
(捕集性能が得られないことがあります)



本体塗装面は傷のつきやすいもの
(コンクリートなど) のうえには
直接置かない。



- 本体は水平に据付ける。(前後・左右)
(羽根当たりや異音の原因)
- 凸凹のない平面に据付ける。
(傾きや振動の原因)

- 室内には専用の給気口を設ける。
(扉の開閉が困難になったり、製品性能が得られないことがあります)
- 風の影響を受けやすいため、空調機や給気口からの風が調理の油煙に直接あたらないようにする。
(油煙等の漏れの原因)

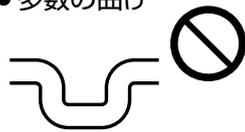
ダクト工事

- 300m³/h時5.5Pa (φ150mmスパイラル管2.6m相当) 以上の圧力損失になるように配管する。
(モーターのメンテナンス時期が早まることがあります)
- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつける。
- 下図のようなダクト配管はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因)

● 極端な曲げ



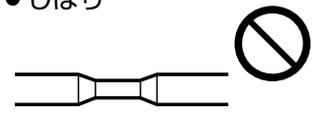
● 多数の曲げ



● 吐出口のすぐそばでの曲げ



● しぼり



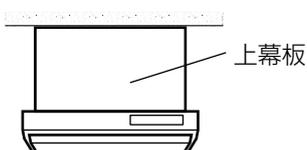
システム部材

- システム部材の選定には圧損の少ないものを使用する。(製品性能が十分に発揮できません)
- 屋外フードはメンテナンス(清掃・点検)できる場所に取付けてください。
- 排気ダクトの先端に取付けるシステム部材は、下記を参照してください。



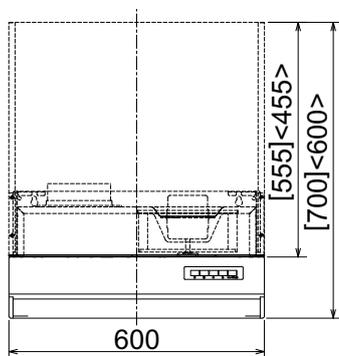
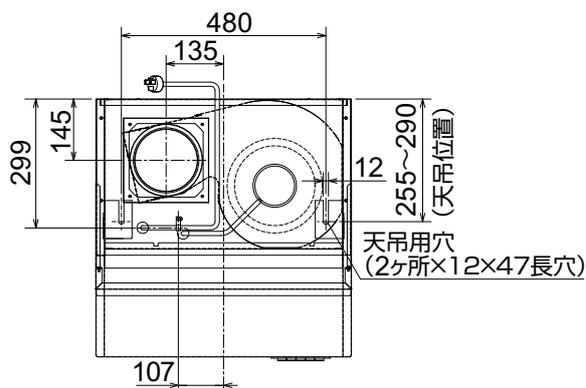
- 鳥などの侵入防止にベントキャップ
- 雨水の浸入防止に深形フード
- 吹き上げが強いところには耐外風高性能フード

- 本体上部の上幕板は取外しができるようにしておいてください。(修理ができません)

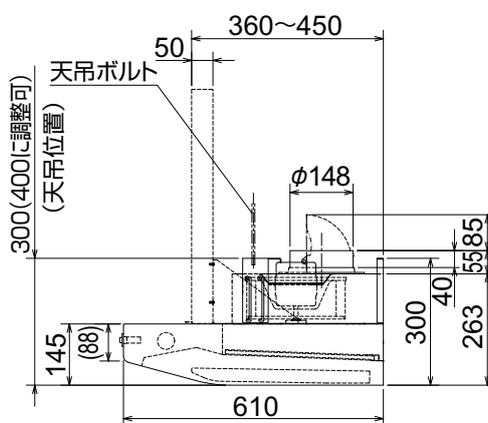
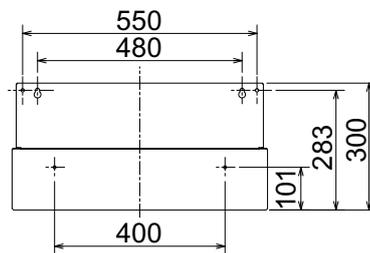


外形寸法図

■外形図



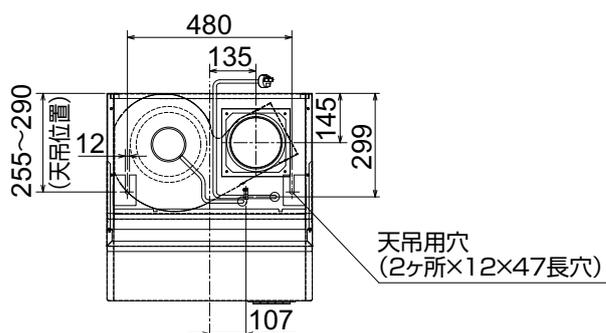
■本体固定位置



※[]内の寸法は別売の上幕板P-6055SHP₂(-B)の場合

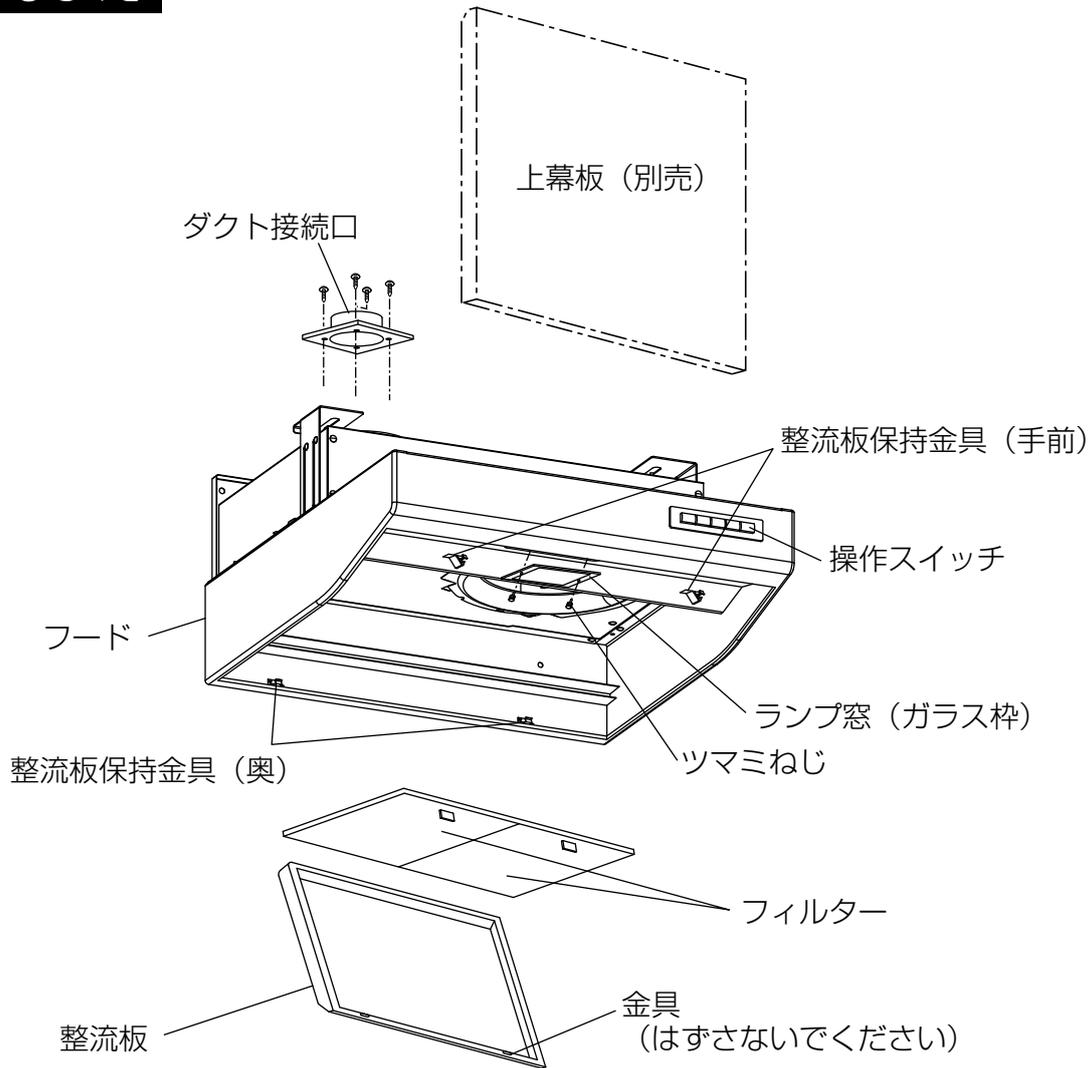
※< >内の寸法は別売の上幕板P-6045SHP₂(-B)の場合

■右排気の場合



単位 (mm)

各部のなまえ



付属部品

●下記の付属部品があります。

ダクト接続口…1個 	特殊ワッシャー…4個 	ゴムワッシャー…4個 	ちょうボルト…2本 
ねじ (4×8) …4本 	木ねじ (大) (6.2×32) …2本 	木ねじ (小) (6×30) …4本 	
天吊用ワッシャー (外径φ20) …4個 (内径φ10) 	ワッシャー…4個 (外径φ22) (内径φ6.5) 	上幕板取付金具…2個 	

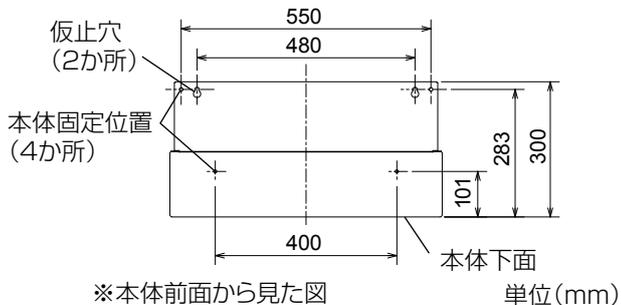
据付方法

本体の据付けには、【壁据付け】と【壁および天吊据付け】があります。

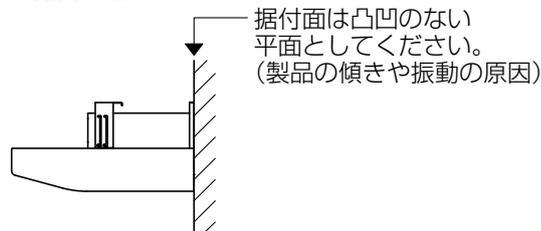
1 据付け前の準備

本体を据付ける前にダクト配管・壁補強の準備をします。

■壁据付け



製品側面図



固定位置の強度を確認する。

本体固定位置が本体を支える強度があるか確認する。
本体質量：17.5kg

吊りボルトを埋め込む。

天吊用穴位置に市販の吊りボルト(M8)2本を埋め込む。

固定位置の強度を確認する。

本体固定位置が本体を支える強度があるか確認する。
本体質量：17.5kg
固定位置は、【壁据付け】の仮止穴(2か所)と本体固定位置(4か所)です。

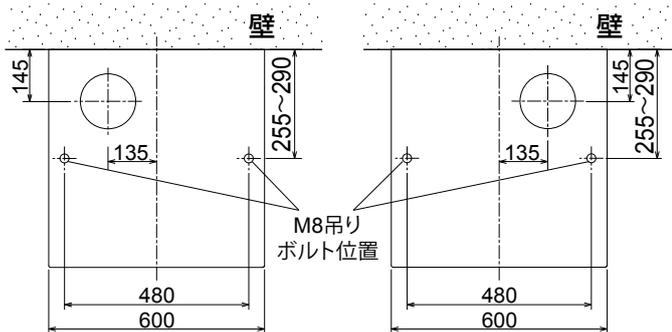
お願い

- 吊りボルトだけでの据付けはできません。必ず、壁固定もしてください。

■壁および天井据付け

左排気タイプ

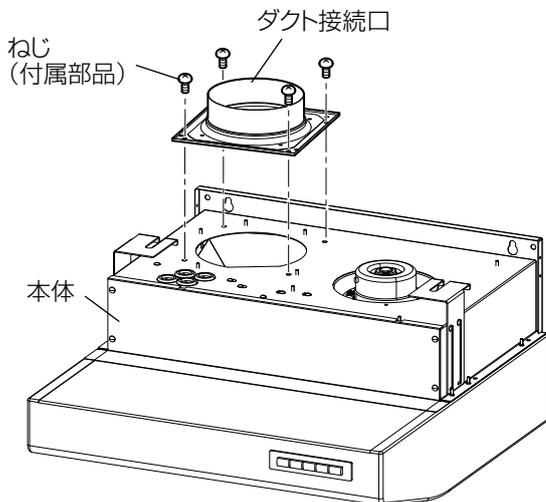
右排気タイプ



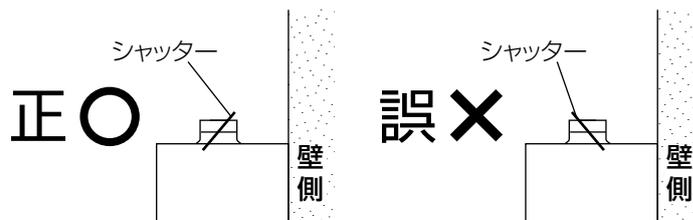
※本体上面から見た図

単位(mm)

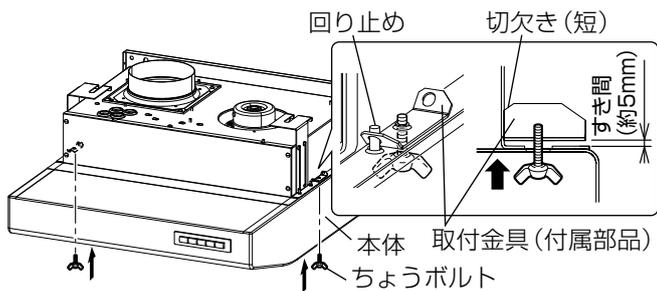
2 ダクト接続口の固定



ダクト接続口を付属のねじ4本で固定する。
ダクト接続口の取付け方向に注意してください。
(下図を参照)



3 上幕板取付金具の取付け



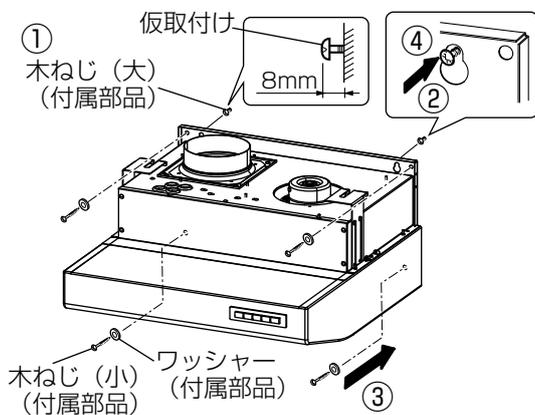
上幕板取付金具(付属部品)を向きに注意(切欠き(短)を本体の内側に向ける)して図のように本体にちょうボルト(付属部品)で仮固定する。(左右2か所)

お願い

- 上幕板を取付ける際に必要ですので、必ず取付けてください。

4 本体の据付け

■壁据付け



- ① 付属の木ねじ(大)を2本仮取付けする。
- ② 本体を引掛ける。
- ③ 付属の木ねじ(小)とワッシャーで4か所を固定する。
- ④ 木ねじ(大)を締め付ける。

お願い

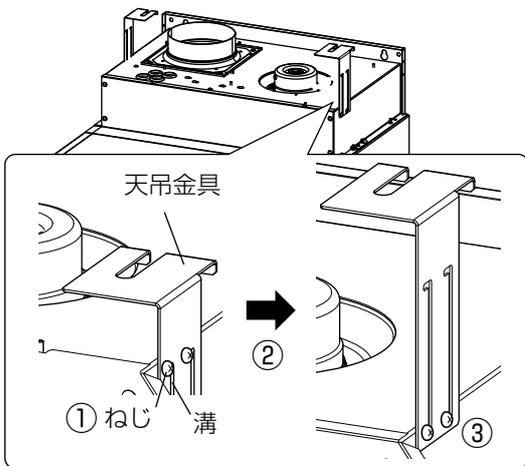
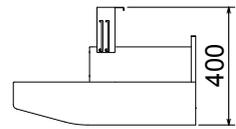
- 本体は水平に据付けてください。(前後左右)
- ねじは確実に締め付けてください。(傾きや振動の原因)

据付方法 つづき

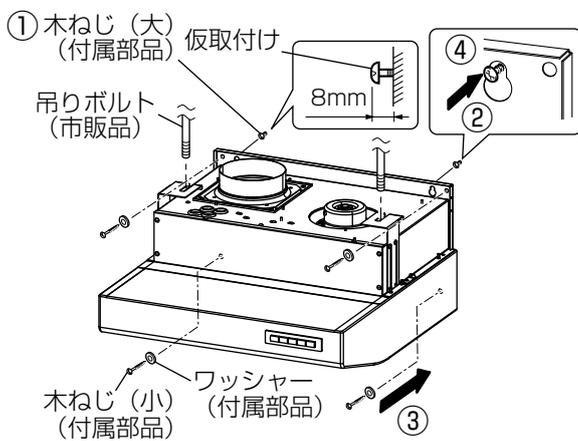
■壁および天井据付け

深形レンジフードファン (本体高さ400mmの製品) からの取替えの場合

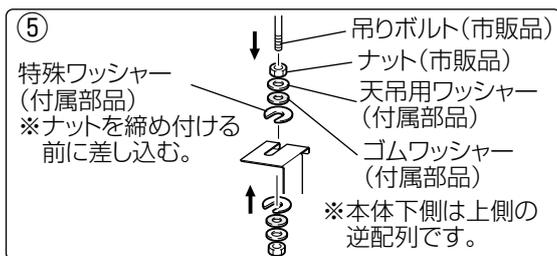
天吊金具をスライドし、高さ400mmに変更する。



- ① ねじ2本をゆるめる。
- ② 天吊金具を溝にそって図のように動かす。
- ③ ねじ2本を締め付ける。
- ④ 反対側も同様に天吊金具をスライドする。



- ① 付属の木ねじ (大) を2本仮取付けする。
- ② 吊りボルトに通しながら本体を引掛ける。
- ③ 付属の木ねじ (小) とワッシャーで4か所を固定する。
- ④ 木ねじ (大) を締め付ける。

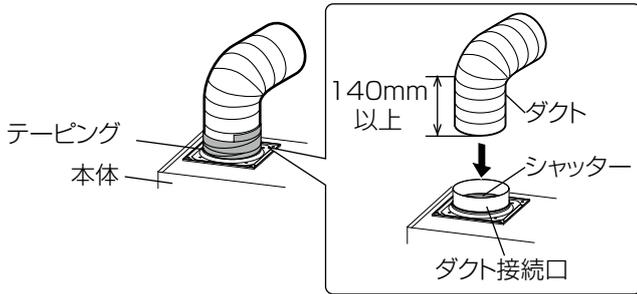


- ⑤ 天吊ボルトのナットを締め付ける。

お願い

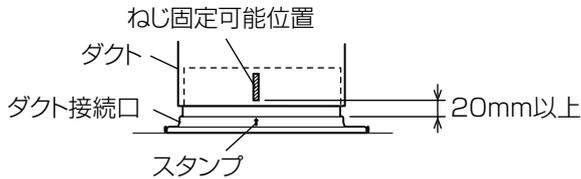
- 本体は水平に据付けてください。(前後左右)
- ねじは確実に締め付けてください。
- 天吊金具が変形しない位置でナットを締め付けてください。(傾きや振動の原因)

5 ダクト工事



ダクトをねじ固定する場合

- ねじの長さは10mm以下
- ねじ固定位置は下図による



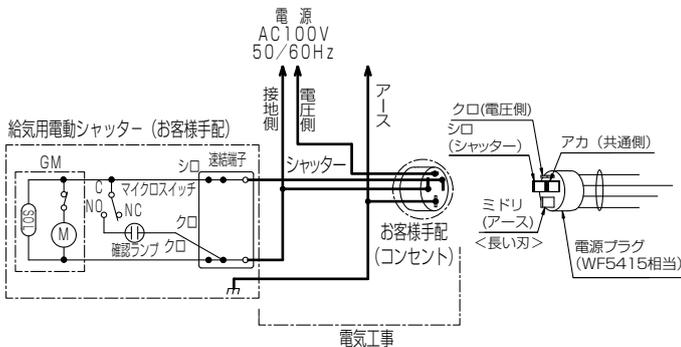
ダクト接続口にダクトを差し込み、市販のアルミテープなどで風漏れのないようテーピングする。

お願い

- 本体とダクト接続口の間から風漏れがある場合は、風漏れしないよう周囲をテーピングしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。
- シャッターがダクトに接触しないよう、立ち上がりのストレート部を140mm以上設けてください。
- ダクトをねじ固定する際は、スタンプから20mm以上の位置で固定してください。（左図参照）
（シャッターの動作不良、異常音の原因）

6 電気工事

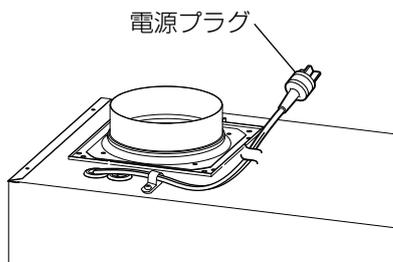
※太線部分は有資格者である電気工事士にて施工してください。



1. 電源プラグ（WF5415相当）が接続できるコンセントを設置する。

お願い

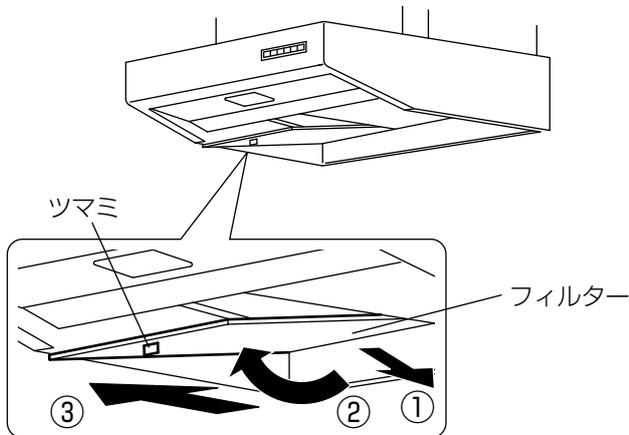
- アースはD種接地工事を必ず行ってください。



2. 電源プラグをコンセントに差し込む。

据付方法 つづき

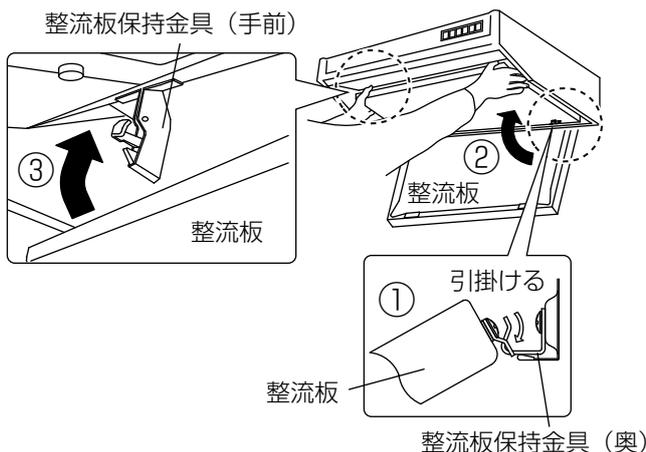
7 フィルターの取付け



フィルター2枚（同梱）を取付ける。

- ① フィルターの奥側を差し込む。
- ② ツマミを押し上げる。
- ③ 手前を引っ掛ける。

8 整流板の取付け



整流板（同梱）を取付ける。

- ① 整流板保持金具（奥）に引掛ける。
- ② ゆっくり持ち上げる。
- ③ 上に押し上げ、整流板保持金具（手前）で固定する。
- ④ 整流板を軽く下に引いてはずれないことを確認する。

据付け後の確認

■据付け後、チェック表にしたがって点検します。不具合があった場合は必ず直してください。
 （機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません）



警告

ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカを切る感電の原因。

〈チェック表〉

	チェック項目	不具合時の対応	チェック
据付け後の確認	本体は確実に固定されていますか？	本体を確実に固定します	
	ランプはゆるんでいませんか？	ランプを確実に取付けます	
	電圧は交流100Vですか？	交流100Vに直します （異電圧を印加すると製品が破損します）	
	電源プラグのコンセント側の結線は正しいですか？	結線を正しくやり直します （誤結線があると下記のような現象が発生します）	

■誤結線があると、下記の現象が発生します。電気工事の結線図にしたがって結線をやり直してください。
レンジフード本体内には誤結線時に動作して本体の破損を保護する素子（PTCサーミスタ）が内蔵されています。（本体スイッチタイプのみ）

誤結線時に結線経路に過電流が流れると動作し、一度動作した素子は復帰に約60秒ほど必要です。

※給気シャッターは消費電力：始動時40W以下、開放時16W以下のものをご使用ください。なお、電動給気シャッター以外は接続しないでください。

〈誤結線時の不具合現象〉

電源プラグのコンセント側の結線を確認してください。

誤結線があると、下記の運転状態になります。正常結線図に従って結線をやり直してください。

正常結線図は6.電気工事をご覧ください。

事例	スイッチの状態		現象			結線不具合箇所
	ランプスイッチ	運転スイッチ (強運転)	ランプ	ファン	給気シャッター	
1	ON	OFF	消灯	停止	閉	シャッター電源と電源線（電圧側）が入れ替わっています
	OFF	ON	消灯	強運転するが、しばらくして停止（停止しない場合もあり）	開くが、しばらくして閉じる（閉じない場合もあり）	
	ON	ON	点灯するが、しばらくして消灯（消灯しない場合もあり）	強運転するが、しばらくして停止（停止しない場合もあり）	開くが、しばらくして閉じる（閉じない場合もあり）	
2	ON	OFF	点灯	停止	閉	電源線（電圧側）と電源線（接地側）が入れ替わっています
	OFF	ON	消灯	強運転	閉	
	ON	ON	点灯	強運転	閉	
3	ON	OFF	消灯 （薄く点灯する場合もあり）	停止	開 （開かない場合もあり）	シャッター電源と電源線（接地側）が入れ替わっています
	OFF	ON	消灯 （配線経路に過電流が流れ保護素子が働きます）	停止 （低回転する場合もあり）	開 （開かない場合もあり）	
	ON	ON	消灯 （薄く点灯する場合もあり） （配線経路に過電流が流れ保護素子が働きます）	停止 （低回転する場合もあり）	開 （開かない場合もあり）	
4	ON	OFF	消灯	停止	閉	シャッター電源に電源線（電圧側）、電源線（電圧側）に電源線（接地側）、電源線（接地側）にシャッター電源が接続されています
	OFF	ON	消灯 （配線経路に過電流が流れ保護素子が働きます）	停止	閉	
	ON	ON	消灯 （配線経路に過電流が流れ保護素子が働きます）	停止	閉	
5	ON	OFF	消灯 （弱く点灯する場合もあり）	停止	開 （開かない場合もあり）	シャッター電源に電源線（接地側）、電源線（接地側）に電源線（電圧側）、電源線（電圧側）にシャッター電源が接続されています
	OFF	ON	消灯	強運転するが、しばらくして低回転もしくは停止	閉 （開く場合もあり）	
	ON	ON	点灯するが、しばらくして消灯	強運転するが、しばらくして低回転もしくは停止	閉 （開く場合もあり）	

■試運転の後は本体の保護のため、保護材で本体を覆ってください。その他内装工事が残っている場合に、保護材を用いることで、天井や壁などの内装工事用の接着剤や塗料が付着して本体が汚損するのを防ぎます。

試運転

別冊の取扱説明書も参考にしてご確認ください。

- スイッチ（強・中・弱およびランプ）を操作し、運転の切替えおよび給気シャッター動作を確認してください。

※できるかぎりお客様立ち会いのもとで試運転を行ってください。

お客様への説明

■別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。

とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。

■この据付説明書は、据付け後、お客様にお渡しください。なお、取扱説明書も必ずお客様にお渡しください。

※お客様が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理人様へ説明してください。